

18. 慢性骨髓増殖性疾患における血小板内TGF- β の検討

奥村一彦, 金澤正昭
(口腔外科 1)

【目的】 慢性骨髓性増殖性疾患（MPD）は、比較的骨髓線維化を伴うことが多いとされている。この骨髓線維化の機序の一つとして、巨核芽球が産生・放出する各種増殖因子の関与が推定されている。この骨髓線維化の機序として、巨核芽球が産生・放出する各種増殖因子の関与が推定されている。われわれもこれまでに巨核芽球由来のTGF- β が骨髓線維化に関与することを報告した（Blood 75:1540, 1990）。しかしTGF- β が最も豊富に存在する血小板中のMPD患者における本因子の動態については明らかではない。そこで、MPD患者と各種血液疾患者の血小板に含まれるTGF- β 量を測定し、血小板内TGF- β の局在を免疫電顕的に検討した。

【方法】 対象は健常者10例、MPD11例（ET6例、PV2例、CML2例、MF1例）、再不育3例、MDS3例、ITP6例である。血小板中TGF- β は末梢血から血小板を分離後、血小板lysateを作製し、¹²⁵I-TGF- β によるradiorceptor assayで測定した。血小板内PF4はEIA法にて測定した。

血小板内TGF- β の免疫電顕は血小板をL.R.white resinで包埋し抗TGF- β 抗体と二次抗体としてgold標識抗IgG抗体を用いた。

【結果】 1) 血小板内TGF- β 量は、健常者の 126 ± 41.1 ng/ 10^9 plt、に比較してMPDではET 55 ± 44.5 、PV 8.5 ng/ 10^9 plt、CML 45 ng/ 10^9 plt、MF 40.5 ng/ 10^9 pltと低下していた。一方、再生不良、MDSではそれぞれ 143.8 ± 56.3 ng/ 10^9 plt、 220 ± 20 ng/ 10^9 pltと健常者と同様の値を示したが、ITPでは 302 ± 87.3 ng/ 10^9 pltと比較的高値を示した。2) 血小板内PF4は健常者の 6.8 ± 0.2 μg/ 10^9 pltに対してET、PV、CMLでそれぞれ 2.4 ± 1.6 、 2.0 ± 0.3 、 3.5 μg/ 10^9 pltと低下していた。3) 血小板内TGF- β の局在を免疫電顕で観察した結果、健常者では α 顆粒に均一に存在したが、MPD血小板では α 顆粒の染色に不均一性がみられた。

【結論】 MPD患者における血小板（ α 顆粒）へのソーティング異常が示唆された。

19. 中国の歯科事情 —上海鉄道医学院における中国歯科医科学の現状—

越智守生¹⁾, 坂口邦彦¹⁾, 荊木裕司²⁾
松田浩一²⁾
(歯科補綴 2¹⁾, 歯科保存 2²⁾)

平成4年10月5日～10月11日に口腔保健協会主催の中歯科医学交流事業の一環として上海市の上海鉄道医学院にて講義、示説、実習を行い、また、中国における歯科医学事情を視察する機会に恵まれた。

本学から過去4回に渡り多数の教員が上海鉄道医学院に派遣され、特に歯科臨床面での指導、交流が行われてきた。

今回、歯科補綴学第2講座より、坂口、越智、歯科保存学第2講座より荊木が参加した。

6日間の日程の中で、補綴学分野では、補綴臨床におけるM.E機器の応用、陶材溶着鋳造冠および半調節性咬合器などについて、また歯科保存学分野については可視光線コンポジットレジンの臨床応用について、講義、示説、実習を行った。

また、その間に、中国における歯科医学の、臨床、研

究面の現状についても視察した。

今回の訪問に於て、過去4回の交流事業の報告に比べ、診療施設や材料等の向上がみられた。また、小児歯科や矯正歯科も重要視され、昨年4月より小児歯科、矯正科が新たに開設された。さらに、近年中に付属病院の改築も予定されており、診療体系のより一層の充実がなされるものと思われる。このことより、日中歯科学交流の成果が挙がっていることが伺われた。

昨年8月に、中国上海鉄道医学院と本学との間で姉妹校締結の仮調印が行われたことにより、両校の親密度はさらに向上し、有意義な訪問となった。

最後に、今回の派遣団に参加するにあたり、数多くの器具や材料をご寄贈下さいました。モリタ社、ジーシー社、ヨシダ社、松風社、クラレ社にこころからお礼申し